

矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol.3



発行日：令和元年 11月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第53回山部会WGを開催しました！

10月25日(金)に第53回山部会WGが豊田市稲武地区にて開催されました。今回も「山と山村」「森林」という2つの課題に対する4つの解決手法(流域圏担い手づくり事例集、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドライン)に関する進捗報告と意見交換を行いました。また、懇談会発足10年のとりまとめとして、10年誌編集委員会の活動進捗、流域圏年表の作成状況、他部会に紹介したい事柄や場所に関する情報共有と意見交換を行いました。



日時：令和元年 10月25日(金) 14:00~17:00
場所：豊田市生涯学習センター 稲武交流館 第一研修室
参加者：15名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 流域圏担い手づくり事例集について

今年度は事例集の作成を休止し、流域圏懇談会10年と事例集の振り返りの冊子を作成することになりました。編集委員は浜口美穂氏を委員長とし、各部会の有志(川：近藤朗氏、海：高橋伸夫氏、山：洲崎燈子氏、事務局ほか)で構成されています。8月より月1回のペースで開催され、これまでに2回(第1回：8月3日、第2回：9月6日)開催しました。10年誌の構成としては、序章として「はじめに」、第1章として「10年のあゆみ」「矢作川流域圏懇談会とは」「ポイント抜粋年表」「地域部会10年の振り返り」「流域連携の振り返り」「事例集の振り返り」、第2章として「キーパーソンヒアリング」「座談会」、第3章として「今後に向けて」、結びとして「おわりに」を考えています。年度内に全体会議で披露できる資料を作成することを目的としています。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

先日開催された矢作川感謝祭では、昨年よりも林業関係者と話す機会が増えました。林業の作業班同士の交流も目的の一つであると考えているので、イベントの規模が大きすぎても難しいと感じています。また、矢作川流域林業担い手100人ヒアリングは、昨年夏以来、少し足踏みをしています。前回林野庁のガイドラインが紹介されて、それを流域レベルで作成すれば、おのずと待遇や給料の問題について踏み込むことができ、課題解決へのアプローチが見えた気がしました。豊田市役所稲武支所副支所長の鈴木様に、木の駅プロジェクト設立に向けた動き、稲武地区の9割を占める森林のうち、3分の2が財産区であることの利点等についてご報告いただき、懇談会員との意見交換を行いました。

3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて

以下の3つの項目について、話題提供をいただき、意見交換を行いました。

《流域市村の間伐面積の推移》長野県域の間伐面積が低下し、全体としても過去最低の数字になりました。しかし、2019年度から森林環境譲与税が配分されるため、状況が変わる可能性があります。今後も間伐面積の推移を蓄積していきたいと考えています。

《水源の森林づくりガイドブック》林野庁治山課が、最新の研究成果や地域の実例をもとに森林づくりのガイドラインを作成しました。地域の実例では、「新・豊田市100年の森づくり構想」が掲載されるなど馴染み深いものになっています。

《岡崎市の森づくり協議会》この協議会は、岡崎市森林整備ビジョン10年計画のリニューアルのために設立されるものです。協議会員には川上より森林所有者、川中より木材加工業者等、川下より住宅建築業者が選出されるなど、岡崎産の木が適正な価値で商品化したいという声が反映された協議会になるものと期待されます。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

以下の項目を中心に話題提供をいただき、意見交換を行いました。

《水源の森林づくりガイドブックの活用》安城市と根羽村は、平成3年から茶臼山北斜面で分収育林事業を行っています。その提携が令和3年に切れるため、今後のビジョンを話し合うのにこのガイドブックを活用しています。また、森林組合の技能職員にも配布して、矢作川源流の森林施業のあり方を考えるツールとして役立てています。

《長野県と都市部が連携した豊かな森づくり》森林環境譲与税の活用として①森林整備、②森林整備を担うべき人材の育成、③森林の公益的機能の普及啓発、④公共施設への木材の利用が示されています。長野県内の市町村と他県の連携事例について、情報共有を行いました。

5. 懇談会発足10年のとりまとめについて

今回は、10年誌編集委員会の進捗状況、流域圏年表の作成状況、他部会に紹介したい事柄や場所について、事務局より状況報告及び話題提供を行いました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集(10年誌編集委員会の活動報告)

- ・事例集の取材団体は合計 102 団体となっている。各団体の設立の要因には、市町村合併があるものと思われる。合併によって、小さなコミュニティが消失して、それを補完するように団体が設立する例がみられる。一度、流域圏年表と併せて、これらの団体の活動状況を整理したいと考えている。(近藤)
- ・取材団体とは、距離や嗜好などの物理的要因から出会うことが難しい中で、交流会の開催によって結び付くことができる。これは大変有意義なことで、面白い企画である。林業関係者の交流の場としても利用できると思う。(今村)
 - ▶ 事例集交流会のスタイルを変える年があるのは有意義だ。報告会という敷居をさげて、関係者が参加しやすい雰囲気を作るのも大切だと感じた。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・管内の森林組合では、新しい人材は入ってくるが、仕事を覚えてこれからという時に辞めてしまう。おそらく、給与と待遇がネックになっているのだと思う。(大重)
 - ▶ 待遇や労働条件について会合をもったとしても集まりにくいと思う。一方で、森林づくりのガイドラインという名目で会合を開けば、自然に給与と待遇に関する話になると思う。(丹羽)
- ・稲武地区の取り組みに「集落営林」が出てきたが、おいでん・さんそんセンターでも旭地区で半農半林塾を開催したり、集落単位で山を守る人材を育成したりしている。また、情報交換をお願いしたい。(洲崎)
- ・稲武地区は、山林の3分の2が財産区となっている。財産区とは、自治法で特別地方公共団体といって山の固定資産税が免除される。また、移住と同時にその財産区から得られるものを取得する権利も生じる。(鈴木)
 - ▶ 岡崎市の宮崎財産区も同様だ。新規移住者にも、もともと住んでいた人々と同様に山を使う権利が生じる。(眞木)
 - ▶ 以前から稲武には財産区という非常に大きなポテンシャルがあると予想していた。いよいよメリットとして活かされる時がきた印象だ。財産区ではない個人財産の場合、地域全体が動くことは難しいと感じている。(蔵治)
- ・地域の高齢化やしがらみがある中で、自らの営林には限界があると感じている。そんな中で希望と考えているのは、しがらみのないよそ者だ。地域を活性化するためには、よそ者であろうと定住者がいることが条件だ。(鈴木)
 - ▶ よそ者と言えば額田の唐沢晋平氏だ。よそ者が木の駅プロジェクトを立ち上げ地域の活性化に貢献している。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドライン(岡崎市の森づくり協議会について)

- ・岡崎市は、森林環境譲与税について、何か話は出ているのか。(今村)
 - ▶ 今回設立された「岡崎市森づくり協議会」の中で、その使い道について議論されるものと思われる。(蔵治)
- ・岡崎市では、もともと経済振興部の中に林務課(経済林の観点)があり、環境部の中にも森林企画担当(環境や治水の観点)があった。今回これらを一つにして15人規模の経済振興部森林課となった。初年度は3,200万円の森林環境譲与税の配分があるそうなので、協議会の指導を仰ぎながら、有効に活用して欲しい(眞木)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・木づかいに関するどこでもシリーズで、前回の根羽村のWGでは、「どこでもサウナ」を体験いただいた。今後は、サウナの周りで、ゲーム、婚活、山村ミーティングを行うなど、その活用を模索したい。皆さんはどう思われたか。(今村)
 - ▶ 皆の笑顔が満足度を表している。60℃くらいであれば皆が楽しめる。大変感動して購入を決意した。(山本)
- ・長野県の森林環境譲与税活用の提案というのは、都市の自治体に対してPRを行うということか。(蔵治)
 - ▶ 現在、東京都の墨田区や府中市に対して行っているところだ。(今村)

●懇談会発足10年のとりまとめについて

- ・流域年表については平成の市町村合併、木材価格の出どころ、千年委員会などの団体の設立は加えて欲しい。(洲崎)
- ・他部会に紹介したい事柄や場所については、次年度の勉強会に反映される重要な議論になるはずである。この項目については、次回のWGでしっかり時間を割くとよいと思う。次回までの宿題にしたい。(蔵治)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、12月6日(金)~7日(土) 恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

